

ジャーナリズム実習

科目ナンバリング SOC-206
選択 2単位

木下 浩一

1. 授業の概要(ねらい)

ジャーナリズムを古典的な分類法によって細分化すれば、送り手／受け手／メディア／コンテンツ／効果の5つに分けられます。本講義では主に、新聞におけるコンテンツ、つまり新聞記事を扱います。

新聞記事は複雑な力学のなかで生成されるため、さまざまなバイアスがかかっています。特定の新聞記事は、ある視点と視角から書かれます。したがって読者は、ひとつの新聞記事やニュースを、多面的・多角的にみる必要があります。

将来ジャーナリストを目指すひとはもちろん、一般市民あるいは社会人にとっても、新聞記事の「読み書き能力(リテラシー)」は重要です。批判的に読み、批判的に書く能力は、就職活動においても必須です。参加者と共有しながら、能力を高めましょう。

*新型コロナ・ウイルスの状況によって、内容を変更する場合があります。コロナ禍が維持・拡大の場合、コロナ関連のジャーナリズム状況を探り上げます。

*本講義は対面を想定していますが、新型コロナ・ウイルスの状況によっては、オンラインとなる可能性があります。

2. 授業の到達目標

1) 卒業レポートや卒業論文の執筆において必要となるであろう、ジャーナリズム分析の能力を身につける。

2) いくつかの 이슈(issue: 社会問題／論点)に興味をもち、「定点観測」する習慣をつける。

3) その 이슈についての解説記事や解説レポートが執筆できる。

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート(60%)と課題提出(40%)をもって評価する。

課題提出は、LMSの「掲示板」を使用する予定である。

4. 教科書・参考文献

教科書

*教科書は特に指定しない。

参考文献

藤田真文・岡井崇之、他 『プロセスが見えるメディア分析入門』 世界思想社、2009年

5. 準備学修の内容

▼授業では新聞記事を多用します。新聞記事や授業の内容から、1)興味関心を広げる、2)関心を絞り込む、3)特定の事例について調べる、4)再び受講する。1)から4)を繰り返し、講義に臨んでください。

▼実習以外の時間に、自らが選んだテーマについて、各自でコンテンツ分析(場合によってはメディア分析)を行ってください。

6. その他履修上の注意事項

▼「ジャーナリズム演習基礎」を履修していることが望ましい。

▼他の報告者のプレゼンテーションも、他人事(ひとごと)ではなく、自分が担当しているかのように参加してください。「引き受ける」態度は、学問においても仕事においても重要です。

▼批判的に議論しましょう。ただし、批判的というのは、必ずしも否定を意味しません。端的に言えば、是々非々です。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス、イントロダクション

【第2回】 新聞データベースの利用

*第2回以降、新型コロナ・ウイルス関連を多く採り上げる可能性がある。

【第3回】 分析と講評(1)

【第4回】 分析と講評(2)

【第5回】 分析と講評(3)

【第6回】 分析と講評(4)

【第7回】 分析と講評(5)

【第8回】 分析と講評(6)

【第9回】 分析と講評(7)

【第10回】 分析と講評(8)

【第11回】 分析と講評(9)

【第12回】 分析と講評(10)

【第13回】 分析と講評(11)

【第14回】 分析と講評(12)

【第15回】 まとめ